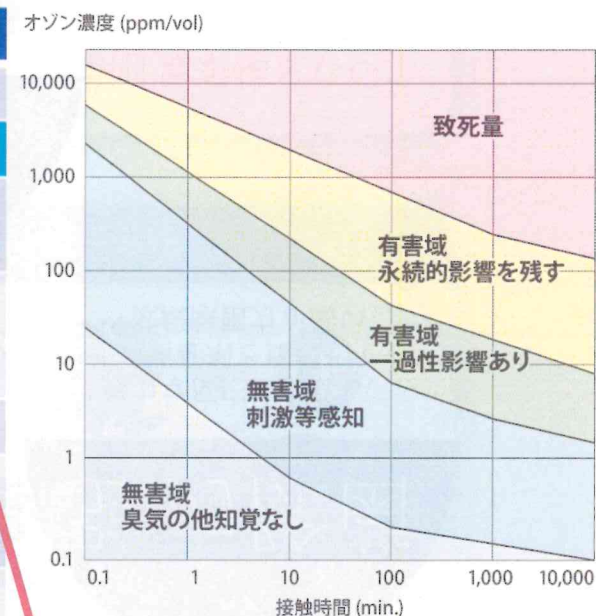




オゾンは高濃度では人体に害がありますが、それはオゾン以外の物質でも同様に言えることです。米国や日本でのオゾンの作業環境での許容濃度は0.1ppm以下と定められています。  
 許容濃度で正しく使えば薬品やガスに比べ安全で扱い容易な物質です。

濃度(ppm)	人体への反応	備考
0.01~0.03	ほとんど臭わない	日中自然界にある濃度
0.04~0.06	さわやかな臭い、オゾンの臭いがある	
0.06	これ未満では慢性肺疾病患者への影響はない	公害対策基本法で定められているオキシダント環境基準
0.1	人体への反応(咳、涙、鼻が痛い)	ACGIH(米国政府関係産業衛生者会議)と日本産業衛生学会が許容する濃度※
0.2	3時間暴露で視力の減退が出始める	
0.6~0.8	頭痛、せき、呼吸困難	
1~2	2時間暴露で、頭痛、胸部痛など	
5~10	呼吸困難、暴露が続けば肺水腫を招く	



※労働者が1日8時間、週40時間程度、肉体的に激しくない労働強度で有害物質に暴露される場合、当該有害物質の平均暴露濃度がこの数値以下であれば、労働者の健康上悪い影響が見られないと判断される濃度のこと。

● ※0.05ppmはこのあたり